Freedom of form finding

Ney & Partners（ネイ アンド パートナーズ）代表取締役 Laurent Ney
社会環境工学科２年次対象　担当教員：星野 裕司

実施概要

2009年10月7日(水)に、ベルギーの構造デザイナーであるLaurent Ney氏の「Freedom of form finding」と題する特別講演会が，百周年記念館にて行われた。参加者は，社会環境工学科２年次の「景観デザイン」の受講者68名とその他学部生と大学院生であった。なお，講演は基本英語で，随時Ney & Partners所員の渡邊竜一氏による概要の通訳が入る形で行われた。

講演は，Ney氏の代表作である「Knokke Footbridgh」から最新作「Oosterweelverbinding」に至る様々な作品を通じて，彼の特徴である「Form＝“かたち”に関する思考」について，ご紹介いただいた。その概要は，「橋梁設計においては，法規，機能，力学的要請，意匠性など様々な観点からの与条件が設定されうる。しかし，これらに加えて場所性，コンテクストに沿った建築的価値からの観点が含まれるべきだ。与条件の設定には，感覚的・直観的な要素も含まれる。その後，これらを満たす最適な“かたち”の探求が始まる。“かたち”は，構造最適解であると同時に，意匠性，機能性，力学的合理性，経済性などを満たす幾何形状（geometry）である。これは，橋梁形式の選定から来る所与のものではなく，現代の技術，構造解析によって産み出される」というものであった。受講生は２年次が中心で，いわば初学者であったが，自分が学んでいることの有効性・可能性について，感じるものが多かったようである。学生感想文の一部抜粋を付す。

学生の感想文

様々なプロジェクトを紹介しながら，その一つ一つで「かたち」に対するこだわりや具体的な力学での計算がすごく伝わりやすかったと思う。（中略）よく分かったのは，世界的に活躍しているエンジニアでも行っていることは，基本的な力学が大切ということだと思う。今の基本的な勉強がおろそかにならないことが大事だと思えたので，今の大学での勉強はしっかり取り組みたいと思う。



